

‘22夏季手当第2回交渉！！

会社の考え 「手当は業績給だが…」

中央本部は6月1日、『第2回交渉』を行いました。

組合側の要求根拠として

- ① 蔓延するコロナウイルスの不安の中、エッセンシャルワーカーとして私たち組合員は日々の安全安定輸送に尽力していること。
- ② 計画未達を理由に期末手当を抑制するのは許せない。この間の努力を業績に関係なく還元すること。
- ③ 人事制度改革以降、会社の不手際が改善されていない。困惑しているのは現場で働いている組合員である。
- ④ 若年退職が後を絶たない。女性設備が整っていない、老朽化設備も改善されない、現場はこのような状況で働き甲斐をもって業務を遂行できる環境とと思っているのか。
- ⑤ 以上を踏まえたうえで、計画達成に向けたモチベーションアップには、期末手当の支給意義が非常に大きい。人的投資が急務である。

以上を根拠として、回答を求めました。会社の回答は、

会社「要求の根拠を真摯に受け止め、社内で議論をしていく」

会社は、「コロナ禍における対応に感謝を言いつつも、3月期の貨物会社単体での赤字決算を理由とした業績給としてのウエイトが高い」と、抑制姿勢をとっています。

中央本部は、「業績給としてウエイトが高いというが、黒字決算時の期末手当では、還元された実感がない。今年の4月以降、物価の上昇が著しく、社員の生活は苦しくなる一方である」と主張しました。

青年部の皆さん、会社は過去に、黒字になれば還元すると言い、黒字になれば、「上場が先だから、我慢だ」と還元しなかった。このような無責任な対応を許すことは出来ません。1人でも多く会社幹部に組合員の声を届けるために、集会・常駐への参集をお願いします。